



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」



高岡市立戸出東部小学校
令和6年7月16日発行

「楽しい給食の時間を通して」

給食主任

多くの東部っ子が、給食の時間を楽しみにしています。新型コロナが五類に移行されてからは、グループで会話をしながら食べることができるようになり、他の学年の友達や先生と交流しながら食べる「交流ランチ」も行われるなど、楽しい行事も増えました。

先日、調理員さんが給食の時間に1年生の教室を訪れ次のような話をされました。「給食は栄養のバランスを考えて作っている」、「苦手なものがあるかもしれないけど、がんばって食べてくれるとうれしい」、「牛乳には栄養がたっぷりあるからしっかり飲んでほしい」等です。すると、苦手なものを一口だけでもがんばって食べようとする子や、野菜をおかわりする子が見られ、その日はいつもより残食の量が減ったのです。実際に給食を作っている調理員さんから直接思いを聞き、食材の知識を得ることにより、「調理員さんが心をこめて作ってくださっているのだから」「自分の体のために」残さず食べようという気持ちをもつことができたのではないのでしょうか。

今年度に入ってから残菜の量が少し増えたことが本校の課題となっていますが、残菜を減らすためには、食べることを強要するのではなく、先の1年生の実践のように、子供が食べよう、食べたいと思える環境を作っていくことが大切だと考えます。現在、そのような環境づくりに取り組んでいるところです。これからも、子供たちが給食の時間に友達と「食事を楽しむ」経験を重ねる中で、感謝の心や食に関する正しい知識、自分の健康や体力づくりについて自分で考えて食べる力等を身に付けていってほしいと願っています。ご家庭でもときどき、その日のメニュー等を話題にされてはいかがでしょうか。



「5年生 初めての宿泊学習」

5年担任

6月20日、21日に砺波青少年自然の家に宿泊学習に行ってきました。子供たちにとっては初めての宿泊学習です。学年全体の目当てを①学年の絆を深める②社会性を養う③自然のよさを体感するの3つとしました。

宿泊学習中は、上手くいかないときや意見がまとまらないときには班で話し合い、折り合いをつけながら活動を進めようとする姿が見られました。また、それぞれが自分の役割を果たし、互いのことを考えて行動することができました。最終日の野外炊飯では、班の協力性が表れていたように思います。この2日間で一回りも二回りも成長した子供たち。この経験を糧に、これからの学校生活でも力を発揮していきたいですね。

〈子供たちの振り返りより〉

- ・ビンゴオリエンテーリングやイニシアティブゲームで仲間と協力し、知恵をしばって活動した。お互いに信頼し合って活動できたことで、絆が深まった。
- ・カレー作りでは、仕事を分担し、声をかけ合いながら活動できた。みんなで作ったカレーはめちゃくちゃおいしかった。本当に楽しかった！学校生活でも仲間と協力することが大切だと思った。

